平泉

年　組　番

得点　／30

問一　次の傍線部の漢字の読みを現代仮名遣いを用いて平仮名で書きなさい。

①　高館に登れば　（　　）

②　和泉が城　（　　）

③　七宝散りうせて　（　　）

④　五月雨の降り残してや　（　　）

問二　次の傍線部の語句の意味としてあてはまるものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①　栄耀一睡のうちにして、　**ア**一眠りの夢　**イ**まばたき　**ウ**一晩　（　　）

②　一里こなたにあり。　**ア**向こう　**イ**手前　**ウ**遥かかなた　（　　）

③　さても義臣すぐつて　**ア**そのまま　**イ**それにしても　**ウ**そんなときも　（　　）

④　義臣すぐつて　**ア**選りすぐって　**イ**こぞって　**ウ**優れていて　（　　）

⑤　すでに頽廃空虚の叢となるべきを、　**ア**今はもう　**イ**もう少しで　**ウ**長い間　（　　）

問三　傍線部の文法的説明として最も適当なものを**ア**～**ウ**から選び、それぞれ記号で答えなさい。

①　城春にして　（　　）

②　かねて耳驚かしたる　（　　）

ア接続助詞の一部　**イ**強意の副助詞　**ウ**四段活用動詞の一部

問四　傍線部の格助詞の用法は連体修飾格と主格のどちらか書きなさい。

①　泰衡らが旧跡は、　（　　）

②　兵どもが夢の跡　（　　）

③　時の移るまで涙を落とし（　　）

④　空虚の叢となるべきを　（　　）

問五　次の俳句からそれぞれ季語を抜き出しなさい。

①卯の花に兼房見ゆる白毛かな　（　　）

②五月雨の降り残してや光堂　（　　）

平泉

☆解答例と配点

問一　①たかだち　②いずみ　③しっぽう　④さみだれ　〈1点×4〉

問二　①**ア**　②**イ**　③**イ**　④**ア**　⑤**イ**　〈2点×5〉

問三　①**ア**　②**ウ**　〈2点×2〉

問四　①連体修飾格　②主格　③連体修飾格　④連体修飾格〈2点×4〉

問五　①卯の花　②五月雨　〈2点×2〉

（計30点）